１．次期HPの検討（素案）

2018／3／18　TM

はじめに（暫定版）

本資料（以下、“本素案”と表記）は、意見交換のための“たたき台”（全て仮説）です。
(1) “本素案”の“はじめに”の経緯、目的、位置付けなど、別途整理する予定です。
(2) “本素案”は以下の考え方に基づいて考察しています。
①まちづくりは、「HP、まちづくり計画、組織体制など」を、縦割りでなく、統合（一体化）して考える。
そうすれば、まちづくりの実現性を高め、まちづくりの質の向上にもつながる。
②HPの目的・目標・必要性が、地域住民に浸透すると、HPの投稿や閲覧の動機につながる。
③HPの利活用が進展すると、協議会の目的としている「住民参加型のまちづくり」の好循環のキッカケとなり得る。
(3) “第２次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画“（以下　「市２次構想・計画」と表記）の抜粋版”を作成しました。
①国と宗像市の基本的な考え方を、“地域住民の立場、生活者の視点”で理解するため。
②「市２次構想・計画」は、第１次の成果の検証し、新たな課題を第２次につなぐとの考え方
(4) “本素案”では、今回の第２次HPの本番移行の４月１日を“第２次まちづくり計画期間の節目の時機”と考えました。

２．次期HPの検討（素案）

はじめに（暫定版）のつづき

(5) “本素案”は主として、第１次HPの投稿記事（以下、コンテンツとも表記）を基に、「成果と新たな課題」を、主なテーマとして考察しています。
①今現在、HPに既に「見える化」㊟されている記事を基に考察
(6) “本素案”は性格上、敬語、敬体は省略しています、ご了解下さい。
(7)協議会の規約（目的）の「明るく健全な地域社会を築く」の精神を尊重します。

＜参考㊟＞ “本素案”の「見える化」とは、日の里HPに投稿（コンテンツ化）された状態を指します。
このコンテンツを、①鳥の眼、虫の眼、魚の眼　又は、② “地域住民の立場、生活者の視点”で考察すれば、様々なものが見えてくると言うことから、企業、まちづくり団体、マスコミなどで、近年とりあげられている様です。

３．第２次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画（抜粋）

2018／3／17　抜粋版作成

第　2　次
宗像市コミュニティ基本構想・基本計画

地域の個性を磨き、課題に挑む

～地域課題の解決　特色ある地域づくり～

出典：宗像市ホームページ

■次期HP作業部会員の注釈
①本基本構想・計画の審議には、１２地区のコミュニティの代表者が参加
②原本容量が大きすぎるため、抜粋版を作成して、第１次日の里HPに投稿
③国や宗像市の考え方を理解する必要性を感じた

平成 27 年 3 月

宗　　像　　市

参考

平成 27 年度 (2015)	平成 31 年度 (2019)	平成 32 年度 (2020)	平成 36 年度 (2024)
第 2 次宗像市総合計画（前期基本計画）		第 2 次宗像市総合計画（後期基本計画）	
第 2 次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画			

各地区まちづくり計画の策定状況

地区名	策定年度
東郷	平成 19 年度（平成 24 年度見直し）
日の里	平成 16 年度（平成 26 年度見直し）

策定や見直し作業の完了年度

４.「市２次構想・計画」／参考として引用した文言など

１.「第２次基本構想・計画」とは
今後１０年間のコミュニティ施策の推進のため、行政が中心になって取り組むべき施策を定めたもの
＊宗像市の１２地区コミュニティの代表者も「市２次構想・計画」の審議会などに参加している。

「市２次構想・計画」を参考とした、参考にした“考え方、項目・文言”などは、概ね、以下の通り

１. 取組姿勢
(1)第１次基本構想・計画に基づいて取り組んだ結果の検証、第２次では、今までの成果を継承しながら、さらに地域の個性を磨き、課題に挑む
２. コミュニティの将来像
(1)運営体制の基盤強化より効率的で効果的な運営体制の基盤強化を図る
(2)地域特性を活かした事業展開
(3)多様な担い手による連携
３. コミュニティ機能の充実・強化
(1)まちづくり計画の推進
４. 地域力を活かしたまちづくり
(1)地域特性の確立
(2)地区の強み弱みの共有　　（リスク管理）

５．第１次HP、第２次HPの全体概要

１．第１次HPの成果

第１次HPは、以下により、所期の目標を確保できたと考えられる。

(1)第１次HPは、協議会（町内会）の組織改定、日の里まちづくり計画（構想）、広報部会全体会議など一体運用の結果、まちの姿の「見える化」は概ねできているとの判断⇒　第２次HPに継承

①10年以上前のまちの姿、まちづくり計画、組織体制とその考え方、HPの開発記録などが、10年後、20年後も、HPを介して後世につながる。

②過去の協議会の成果や新たな課題を発展・継承できる。（「市２次構想・計画」の指摘事項）

(2)HP後発の他の地域の「お知らせ型HP」は、ネットで検索しても、何処も苦戦している様に見える。

(3)ICTの利活用は、今や時代の潮流、産業構造の転換や社会のありようおも変革している。

方向性として、まちづくりに“ITC（HP、SNS、スマートフォン）の利活用”は、若年層、現役世代がまちづくりの主役になる、今後に期待したい。市のパイロット事業はその先行投資と考える。

(4)日の里HPは「協議会の最大の強み」、全国的にも、事例が殆どないと思われる。

２．第２次HPの課題対応

第２次HPは、操作性向上、スマートフォンの新規対応などにより、まちづくりに必要な要素（機能）を具備していると思われる。　＊今後のまちづくりで想定した範囲

３．第２次HPは、全国的にも数少ない「まちづくり総合型HP」と位置付けられ、H16年以降の運用実績も継承している。

第２次まちづくり計画（構想）の“団地再生”と“日の里HPのソフトパワー”を組み合わせた、新たなまちづくりの「目標設定」につながるかも知れない。

6. 今後10年間／地域社会に起こり得る変化

(1)現役世代：共働き・核家族・子育て・介護

(2)シニア世帯：高齢化、要援護

(3) 協議会、町内会など
①高齢化、共働き、担い手不足

(4)地域社会を取巻く社会情勢の変化

①国・地方の借金と財政支出増
・人口減少、高齢化の進展
・国際情勢や自然災害が追討ち
②市など行政サービスの低下
・福祉・医療、介護など
③世帯や地域社会にやがて影響か？

(5)年金、税制、社会福祉など、世代間の不公平感

国と市町村の基本方針は「地域分権」
◎協議会に行政サービスの一部を業務移管

(1)日の里のコミュニティの姿は、概ね平穏であった過去40年に比べ、今後10年、その姿は大きく変貌するかも知れない。
(2)世代を問わず、将来的に不安を抱えている人々は多い。

◇10年後の姿を想定してみる。
(1)家庭や隣組など生活者の姿は　？
(2)協議会、町内会、構成団体は　？

7．第１次HP／成果と課題、第２次HPの新たな課題

第１次まちづくり実行期間（H16年度～H29年度）

「住民参加型」の仕組づくりとその推進

(1)第１次日の里
まちづくり計画（構想）

(2)第１次協議会・町内会
組織体制

計画・組織体制・HPの一体運用（統合）

(3)第１次HP（H16年10月本番）
①日の里のまちの姿の「見える化」
＊IT（情報技術）をまちづくりに適用

十三年間の活動の成果と課題

第２次まちづくり実行期間（H30年度～）

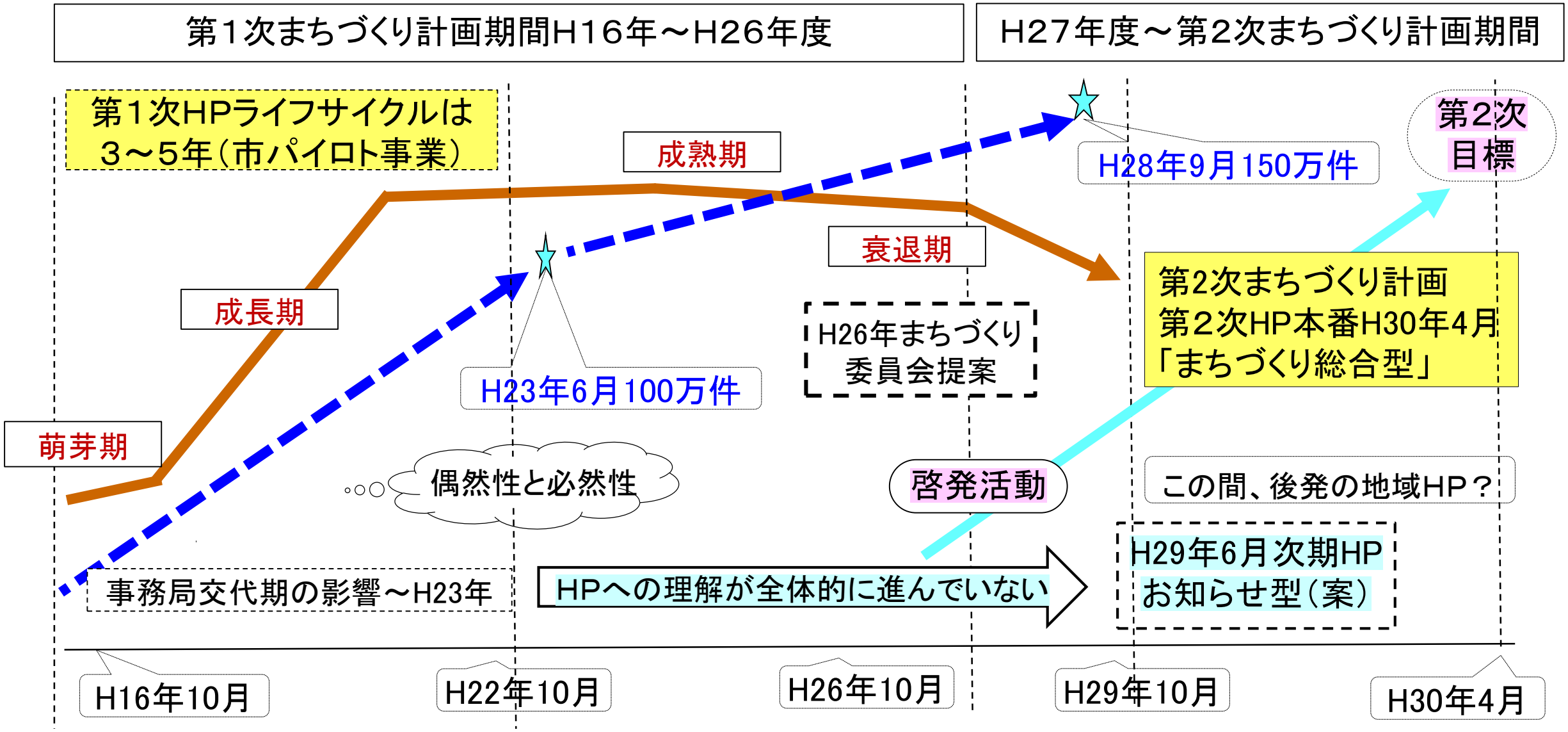
「第２次まちづくり計画」を基に
「住民主体」のまちづくりを推進

(4)第２次まちづくり計画
①ココカラひのさと
②日の里が目指すまちづくり

計画・組織体制・HPの一体運用（連動）

(5) 第２次HP（H30年４月本番移行）
①「見える化」の成果の発展継承
②新たな課題への対応
「住民主体」のまちづくりモデル
の構築（試行）

8. 第1次HP／系譜　①地域HPでは避けては通れない体験か、第1次HPの成果は？



第1次HPの成果：“まちづくり総合型HP”として、全国初「まちの姿の見える化」を推進、第2次に継承できたこと。

9. 第2次HP／HPの概念図、期待効果など

◇特別委員会、4部会
◇役員会、事務局

◆構成団体（20）
◇地区福祉会
◇青少年育成会他

■自治町内会（12）
・子ども会、シニアクラブ
・福祉会、自主防災会

日の里HP　＊まちづくり面での期待効用
◇まちづくりの情報の一元化、長期間保存
◇各組織の構成員と一般住民との情報格差の解消
◇各組織間～住民、域外などで連携促進
◇「まちづくり計画」の実現性の確保

・HP協力員（サポータ）
・コラボレーション

地域住民（若年層、現役世代、シニア世代）
◇地域住民は、まちづくりの主役
住民参加がまちづくりの決めて

文化、スポーツ、ボランティア
団体、サークル、個人など

10. 第2次HP／「まちづくり計画の推進」に関する有用性

凡例：◎印は新規対応（継承・発展）

日の里の
まちづくり

⇨

■地域特性
独自性

⇨

第1次計画の実行期間は「住民参加型」
まちづくりの基盤整備と、その推進

⇨

第1次の成果を
第2次へ発展・継承

■日の里HP（H16年10月から約13年間持続）
◇まちづくり総合型HPは全国的にも希有⇒偶然性と必然性
☆ICTをまちづくりに応用「見える化」⇒住民に知見が蓄積
・累計アクセス件数：約1,585,000件
・累計クレーム発生件数　：　数件

■HP協力員会（サポータ制）
◎各組織にサポータ制を拡大⇒課題

■投稿が可能な端末
①パソコン、
◎スマートフォン
◎タブレット

■情報の発生箇所（各組織）が直接投稿
(1)HPの記事の質と鮮度の確保
(2)セキュリティー水準を保つ
◎ハンドルネームをHPソフトから自動表示

■HP利用規約の周知
投稿の主管組織や
投稿者の自律性
（まつりなど）

■「住民参加」のまちづくりモデルの活用
(1)①協議会と町内会（住民）との双方向、2系統の情報伝達網　②「見える化」されたHP
◎(2)①、②を統合すれば、効果は期待できる。

■HPの機能
◎メニュー構成の変更
◎操作性の向上

■第2次HP
住民主体の「まちづくり計画」の推進が全体として可能か

11．第2次HP／“新たなまちづくりの転機”　＊まちづくりの質が向上する。

＜投稿者＞　協議会、構成団体、
町内会の会員、一般住民　など

日の里HP「見える化」
☆スマートフォン、タブレット端末の新規採用
若年層、現役世代の
まちづくり情報を、長期間、体系的に一元化（保管）

＜閲覧者＞
一般住民、協議会、構成団体、町内会、住民、域外

コミセン、自治公民館
◇無線LAN
◇大型表示パネル
◇プロゼクター

①スマートフォンの新規採用により、若年層、現役世代の“まちづくり参加の機会創出”
②タブレットの新規採用によりシニア世代のITディテラシー（情報通信技術の読み書きソロバン）の向上
　につながる、幾つになっても“生涯現役”、まちづくりに参加できる。
③まちづくり情報が「見える化」すると、何時でも・何処でも、閲覧、投稿、ミニ会議が可能
④HPを会議で利用すれば、効率的に進み、短い時間で“会議の質”の向上が期待できる。
⑤協議会の事業活動の仕組が「見える化」されると、年度交代時の“情報格差”を補う。

12. 日の里の「見える化」が進展すると、域内外の組織や人材と連携できる

ココカラひのさと

大学

学生

NPO

日の里コミセン

Wi－Fi

日の里HP

◇まちの姿の「見える化」
まちづくり情報の一元化
書庫（アーカイブス）

町内自治公民館

Wi－Fi

自宅

市役所

社協

地域連携

マスコミ

協賛企業

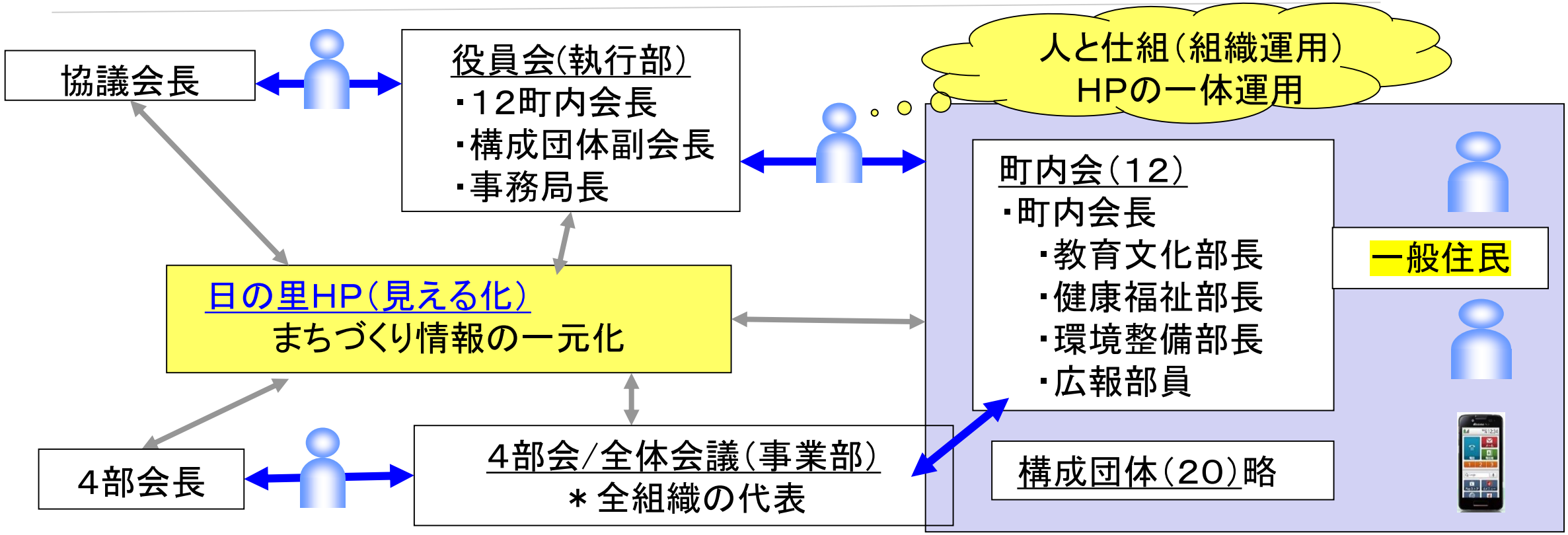
HP事業者

日の里をPR

・同期会、・職場OB会

・帰省先、旅行先

13.「住民参加」のまちづくりモデル（協議会と町内会が連結連動）



「見える化」と、②協議会～町内会間の「住民参加型」の情報伝達ルートの仕組が一体運用できる。
(1)2系統、双方向の情報伝達ルート⇒　協議会、町内会、一般住民は組織的に直結
　①協議会長発のルート：　協議会長　⇔　役員会　⇔　組長会　⇔　一般住民
　②部会長発のルート　：　各部会の部会員　⇔　組長会　⇔　一般住民
(2)伝達内容は、HPに「見える化」され、誰でも何時でも閲覧できる。

14. 第2次HP／日の里の強み「ソフトパワー」によるまちづくり（仮説）

(1)第2次まちづくり計画
マスタープラン（構想）

⇩

(3)年次/まちづくり計画
個別案件の事業展開
（実現性の担保）

⇧

(2)住民ニーズの高い案件
①子どもたち
②若年層、現役世代
③シニア世代．．など

⇩ ⇧

■今後10年間の重点課題（第2次のH30年～H36年）：
(1)シニア世代（現70才台）から、若年層、現役世代への「担い手」の円滑な世代交代⇒　持続的な町内会、協議会の組織体制とその運営
(2)まちづくり計画の新たな事業展開

日の里HP「見える化」
協議会・町内会の活動の質の向上、住民意識も高まる

協議会の各組織の「見える化」対応
①回覧物　②会議資料
③行事や活動の成果の投稿

■第1次の成果（～H29年度末）の継承と第2次HP　＊要検証
(1)第2次HPは「見える化」の継承及び、まちづくりの計画の新たな事業展開に関し、必要な機能は、概ね、具備していると判断できる。
(2)第2次HPの①「見える化」と、②協議会～町内会間の「住民参加型」の情報伝達ルートの仕組が一体運用できる。

日の里住民の“ソフトパワー”でまち創り！
(1)全国に先駆けた団地再生モデルの構築
(2)全国初、ICT（HP、SNS、スマフォ）の活用による、新たなまちづくりモデルの構築

住民参加により
実現性が向上

第2次まちづくり計画

■ココカラひのさとの運用開始

１５．日の里広報紙、日の里HPの投稿記事

１．日の里広報紙、　日の里HPの従来からの考え方

(1)個別の記事は、

①協議会の部会など各組織、　②町内会　　③構成団体（各組織）が作成する。

⇒　各組織の広報部会員の役割　　、もちろんかつては、広報部会HPも独自取材を実施

(2)目的は、子ども会、シニアクラブ、福祉会など、日の里のまちの姿の「見える化」するため。

他のコミュニティとは異なる“日の里の地域特性、独自性”

(3)この記事を、広報部会で編集し発行する。

毎月、広報部会スタッフの人手が掛かっている。⇒　課題

一方、広報紙が無くなると、“HPが閲覧できない層”は“子ども会”など日の里のまちの姿が見えなくなる。

(4) 住民主体のまちづくりにとって、まちの姿がみえないのは、協議会として痛手かと思う。

次期HPで、お知らせ型HPを選択しなかったのも、このためと理解している

⇒若年層、現役世代の考え方は？

自治公民館などでの、タブレット端末によるITリテラシーの向上も課題

２．日の里HPの運用のための組織間の役割分担表が必要

16. 第2次HP／参考

「市2次基本構想・計画」

協議会の規約

協議会の組織体制図

■仕組みの「見える化」 ⇒ HPの可能性
①各組織の機能
②各組織長の責任・権限
③個別事業単位の各組織間の運用分担と連携
④運営委員会の機能等の「見える化」の推進

日の里HP
仕組の「見える化」